A Report in Relation to Return Visits to Japanese Companies, etc. in Taiwan: March 2016

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/47143

日本海域研究，第48号，71-79ページ，2017
JAPAN SEA RESEARCH, vol.48, p.71-79 2017

台湾における日系企業等への再訪記録－2016年３月－

弁納才一[1]・古泉達矢[2*]

2016年9月23日受付，Received 23 September 2016
2016年12月21日受理，Accepted 21 December 2016

A Report in Relation to Return Visits to Japanese Companies, *etc.* in Taiwan - March 2016 -

Saiichi BENNO[1] and Tatsuya KOIZUMI[2*]

Abstract

From March 2nd to March 11th 2016, a group of Kanazawa University students traveled to Taiwan with this research's authors. The trip was primarily aimed at giving students an opportunity to learn about Taiwanese culture and society by meeting people who work at selected companies there, and by visiting museums and academic institutions. In addition, the authors also aimed at making Kanazawa University better known to those companies by taking our students there. Altogether seven students participated in the trip. We visited one non-governmental organization, two companies and several museums and academic institutions, including Academia Sinica and National Taiwan Normal University.

Key Words: Taiwan, Japanese company, university, museum, academic institution
キーワード：台湾，日系企業，大学，博物館，研究機関

Ⅰ．はじめに

ちょうど1年前の2015年3月上旬に，金沢大学人間社会学域国際学類アジアコースの教員である著者らは同学類の学生10人を引率して台北市にある日系企業や研究機関・大学などを訪問した（弁納・古泉，2015）[1)]。今年度は，国際学類の学生にとどまらず，金沢大学の全学的な取り組みとして，2016年3月2日（水）～11日（金），著者らが金沢大学の国際学類・人文学類・経済学類の計7人の学生[2)]を引率して台湾を再訪した（表1，2）。

この事業の主な目的は，台湾の日系企業で働く方々から，海外での仕事や生活についての体験を聞いたり，現地の大学や研究機関に足を運んだりすることで，学生に台湾の社会や文化について学ぶ機会を提供することにある。一方，学生を引率することにより，台湾の日系企業における本学の認知度を向上させることもまた，本事業の役割の一つとして挙げることができよう。今回は，企業側にとっては年度末決算の最も多忙な時期に当たっていたことから，台湾SONYとの調整がうまくつかず，訪問することを断念せざるを得なかったが，新たに台北市日本工商会・台湾日本人会を訪問してお話を聞くことができた。その旅程は表１のとおりである。

[1]金沢大学人間社会研究域経済学経営学系　〒920-1192 石川県金沢市角間町（Faculty of Economics and Management, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan）
[2]金沢大学人間社会研究域法学系　〒920-1192 石川県金沢市角間町（Faculty of Law, Institute of Human and Social Sciences, Kanazawa University, Kakuma-machi, Kanazawa, 920-1192 Japan）
*連絡著者（Author for correspondence）

表1　行程や活動の概要.

Table 1　Itinerary and outline of the activities.

日付(2016年)	滞在地・移動経路	活動内容	宿　泊
3月2日（水）	小松空港－NH1092便→羽田空港→成田空港－NH823便→桃園空港	移動	ノボテル台北桃園国際空港
3月3日（木）	桃園空港→台北市	移動	中央研究院学術活動中心宿泊施設
3月4日（金）	台北市	午前：書籍の購入 午後：2.28記念館参観，台北市日本工商会訪問	中央研究院学術活動中心宿泊施設
3月5日（土）	台北市－高速鉄道→台中市	午前：移動 午後：孔子廟参観	緑柳町ホテル
3月6日（日）	台中市－高速鉄道→台北市	午前：移動 午後：国家図書館，中正記念堂，国父記念館参観	ホテルYMCA台北
3月7日（月）	台北市	午前：国史館（総統副総統文物館）参観 午後：台湾大学，台湾師範大学訪問	ホテルYMCA台北
3月8日（火）	台北市	午前：JTB台湾訪問 午後：国立台湾図書館，故宮博物館訪問	ホテルYMCA台北
3月9日（水）	台北市	午前：台北市図書館北投分館，温泉記念館参観，日勝生加賀屋訪問 午後：淡水・紅毛城参観	ホテルYMCA台北
3月10日（木）	台北市	午後：士林官邸公園参観（休館）	
3月11日（金）	台北市－高速バス→桃園空港－NH824便→成田空港→羽田空港－NH757便→小松空港	移動	

表2　参加者.

Table 2　List of participated students.

氏　名	学類	学年	担当
中川　　純	国際	1	台湾SONYとの連絡・調整，国立台湾師範大学留学中の小笠原千紘との連絡・調整
竹内　友輔	国際	1	台湾SONYの下調べ，台北市日本工商会との連絡・調整・下調べ
山口　はな	国際	1	日勝生加賀屋および中正記念堂の下調べ
小屋敷瑛美	人文	3	JTB台湾との連絡・調整，中央研究院の下調べ，台中のホテル情報の収集，紅毛城の下調べ
福田　綾乃	人文	3	JTB台湾との連絡・調整
柏原　　麟	人文	3	JTB台湾の下調べ，日勝生加賀屋との連絡・調整，国父記念館の下調べ
安地　雅博	経済	4	JTB台湾の下調べ，日勝生加賀屋との連絡・調整・下調べ，台中市孔子廟，故宮博物館および士林官邸の下調べ

本稿では，以下において，今回の台湾研修の概略を記録し，今後の海外研修の参考に資することにしたい。

Ⅱ．企業など

今回の渡航にあたり，台湾SONYへの訪問は断念せざるを得なかった。

1）台北市日本工商会（中正区襄陽路９号富邦城中大楼７楼）

3月4日（金）16:00～17:40，台北市日本工商会（図1，2）を訪問し，総幹事の前田吉徳氏にお話を聞いた。まず，前田氏から自らの経歴について簡潔な説明があった。1979年に大学の文学部（東洋史専攻）を卒業して商社に就職し，同年7月，中国語を勉強するために台湾（台北市）に派遣された。そもそも，大学在学中の1977年から日中学院で中国語を学んでいた。そして，1981年に本社の中国語室に配属され，1982年4月からは自ら希望して北京市に駐在することになり，1989年から7年間は上海市に駐在し，2003

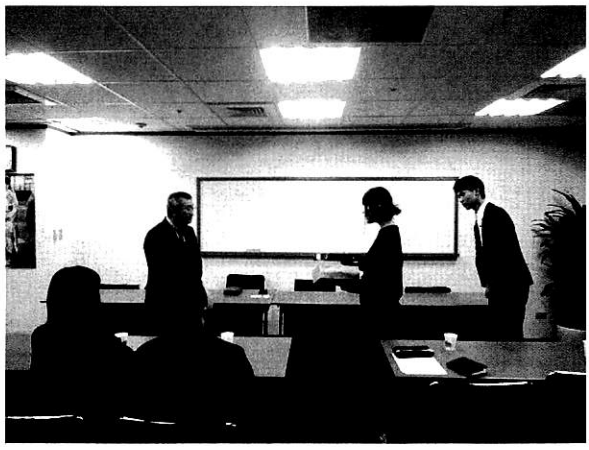

図1　台北市日本工商会総幹事前田吉徳氏に挨拶する学生（中川純・竹内友輔）.

Fig. 1　Kanazawa University's students greeting with Mr. Maeda of the Japanese Chamber of Commerce & Industry Taipei.

図2　台湾日本工商会.

Fig. 2　The Japanese Chamber of Commerce & Industry Taipei.

年から2014年にかけて上海市及び北京市で業務に従事した。こうして，中国大陸には都合21年間駐在した。そして，2014年に退職した後，海外勤務を希望していたところ，同年10月末から台北市日本工商会（台湾日本人会）の総幹事として抜擢されて現在に至ったという。

以上のように，前田氏による経歴などの説明は極めて簡潔になされたが，次の機会にはもう少し詳しく聞いてみたいと感じた。その後，多くの時間は学生及び教員からの質問とそれに対する回答に費やされた。その概要は，以下のとおりである。

日本と中華人民共和国との間で日中国交回復が実現し，逆に，台湾（中華民国）との外交関係が断絶した1972年当時は，日台間の貿易額は日中間のそれを大きく上回っており，日本と台湾の経済関係は極めて重要だったので，その後も台湾との経済的結び付きは継続していた。台北市日本工商会は約50年の歴史を有し(台湾日本人会は約60年の歴史を有する)，2016年3月現在，台北市日本工商会の会員企業は455社，台湾日本人会の会員は約3,000人に上っている。ただし，2016年3月現在に至るまで，台北市日本工商会は日本商工会議所とは無関係であるにもかかわらず，台北市日本工商会が日本商工会議所の海外支所としてリストに掲載されているという。

台北市日本工商会は，毎年，白書を作成し，台湾政府に対していわゆる政策提言を行っており（欧州商会と米国商会も同様の政策提言を行っているという），また，部会ごとの定例会を開催し，講師を招聘して講演を行ったりして情報交換の場を提供している。ただし，スタッフ不足もあって，新たに日本から台湾に進出してくる企業への台湾側のパートナーの紹介や，問題解決のための手助けまでは手が回っていないという。

台湾は日本企業にとって，進出して成功する可能性が中国大陸より高いが，その市場規模は小さい。なお，いわゆる大企業はほぼ進出し尽くした感があり，最近は，飲食業をはじめとするサービス産業の進出が多くなっているが，その出資・投資規模は製造業などに比べると小さい。

中国大陸におけるビジネスはリスクが大きく，複数のプロジェクトを実施できる体力のある大企業でないとなかなか参入するのが難しい。一方，台湾は中国大陸と比べて，文化的な感性が日本と近く，比較的リスクも少ない。そのため，中小企業には合弁などで参入しやすいという利点がある。例えば，日本企業の技術と台湾企業のビジネススキルが組み合わされば，海外へ展開する上で非常に有利であろう。このような方針を財団法人交流協会（1972年以降，日本と正式の国交関係がなくなった台湾・中華民国における事実上の大使館となっている）など，日本側の公的機関も後押ししている。

最後に，学生に対するアドバイスとして，現状を否定的に捉えず前向き・ポジティブに考えるようにすること，また，人に対して情熱を持って語るべきであること，さらに，積極的に海外に出かけて行って，未知なる世界と接して「常識」を覆すような姿

勢を持つようにすることを強調されていた。

2）JTB台湾

3月8日（火）9:30～11:15，JTB台湾（図3）を訪問し，董事長の林田充氏にお話を聞いた。JTB台湾は，2016年3月現在141人の社員をかかえ，同じビルの1階で店舗が隣接している台湾の東南旅行社との合弁会社であり，その出資比率は51%（JTB台湾）対49%（東南旅行社）で，資本比率では日本のJTB側がやや優位に立っているものの，経営の実質的な主導権はむしろ台湾側の東南旅行社に掌握されており，台湾においても合弁会社の場合，相手側との関係には難しいものがあると感じているという。また，2016年現在，日本では人口減少によって国内外への旅行客数の伸びが期待できなくなっているので，JTB台湾としては，訪日台湾人旅行者の獲得に力を入れることになっているという。

ただし，日本の学校における教育（大学の授業を含む）では台湾史が殆ど言及されることがないので，大学生たちも台湾についてあまり理解していないのではないだろうかという点にご配慮いただき，前回と同様に，林田氏のお話の大部分は，台湾の歴史と日本との関わりについての説明に費やされた。これは，林田氏が台湾各地を旅行され，多くの台湾人と接する中で，台湾の歴史と日本との関わりについて興味を持ち，自ら学んだことを披瀝したものだった。

筆者らは，これを海外で何らかの事業を展開する際には，それぞれの地域や国の歴史や文化を深く知ることが極めて重要であるという考え方に基づいてのことであろうと解釈している。

なお，林田氏は，これまで台湾の中華大学において台湾と日本の関係をめぐる諸問題について講演をされたことがあったという。

3）日勝生加賀屋

3月9日（水）9:50頃，日勝生加賀屋（図4）を訪問すると，董事長の徳光重人氏がすでに同館の玄関に待機していて，出迎えていただいた。最初に，30分ほどかけて館内（フロント，レストラン，喫茶室，宴会場，大浴場，土産物売り場など）を案内していただき，館内に展示してある蒔絵・陶磁器などの工芸品を見せていただいた。その後，予定していた時間（11:30まで）を大幅に超過して，12:10までお話を聞いた。なお，同館内の各所にあった電子パネルには「歓迎　金沢大学御一行様」とあった（図5）。

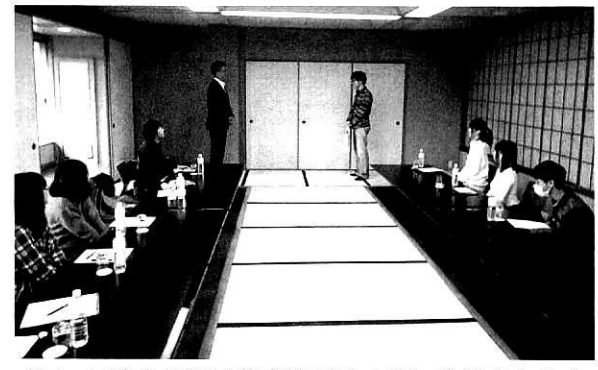

図4　日勝生加賀屋董事徳光重人氏に挨拶をする人文学類3年生の柏原麟.

Fig. 4　Kanazawa University's student greeting with Mr. Tokumitsu of the Radium-Kagaya International Hotel Co., Ltd.

図3　JTB台湾.

Fig. 3　JTB Taiwan.

図5　日勝生加賀屋（中央の電子パネルに「歓迎　金沢大学御一行様」とある）.

Fig. 5　Radium-Kagaya International Hotel Co., Ltd.

前回（2015年3月）と同様に，パワーポイントを使用して，徳光氏が自らの経歴を紹介しながら，日勝生加賀屋を経営していく上でポイントとなる点について説明していただいたばかりでなく，そもそも人間はどのように生きていくべきかについても熱く語っていただいた。すなわち，前者については，旅館業とホテル業との相違，「おもてなし」とサービスやホスピタリティの根本的な相違などについて，具体的な事例を挙げながら，伝統文化を重視する旅館業というビジネスにおいて守るべきところはしっかり守りつつも，変えて行くべきところは変えて行くことの必要性と大切さを説明していただいた。一方，後者については，人との出会いと繋がりが非常に重要であること，自分の利益だけではなく，いかにして社会あるいは他者に貢献するのかを意識すること，違いばかりを見るのではなく，共通点を見つけ出し，また，違いを批判するのではなく，認め合うようにすることが重要であることなどについて説明していただいた。以上の点については，「異文化とのしなやかな共生」を教育目標に掲げている金沢大学国際学類の理念と完全に一致していると思われる。

なお，日勝生加賀屋への来客としては主に台湾人を想定していたが，昨年度は香港・中国からの客が36%にまで急増したとのことである。将来的には，華人がいる東南アジアからの来客も期待できると考えているようである。

Ⅲ．大学・資料館など

1）中央研究院

3月3日（木）午後，中央研究院近代史研究所檔案館（図6）を訪問し，前回（2015年3月上旬）と同様に，中央研究院に留学中（早稲田大学大学院に在籍）の鶴園裕基氏に案内していただき，学生も檔案資料の検索を体験し，また，中央研究院の傅斯年図書館（図7），郭廷以図書館，人文社会総合図書館（同館内には台湾島内の先住民族に関する展示があった）などを訪問した。郭廷以図書館と人文社会総合図書館は，前回（2015年3月上旬）も参観したが，傅斯年図書館は今回初めての訪問だったので，少し時間をかけて同館内の書庫を見て回った。

翌3月4日（金）午前，中央研究院学術活動中心の地下1階にある書店にて書籍を購入した。なお，同書店には中央研究院の出版によるものをはじめとして，いわゆる専門書・研究書が豊富に取り揃えられている

図6　中央研究院近代史研究所檔案館.

Fig. 6　Archives of the Institute of Modern History, Academia Sinica.

図7　中央研究院傅斯年図書館.

Fig. 7　Fu Ssu-nien Library, Academia Sinica.

2）国家図書館

3月6日（日）午後，中正記念堂を参観する前に，そのすぐ隣にある国家図書館（図8）を参観した。ただし，今回は，国家図書館については学生に対して特に事前の下調べをさせていなかったので，同図書館において文献資料の閲覧などはせず，場所を確認するだけにとどめた。

3）国史館（総統副総統文物館）

3月7日（月）午前，総統府（旧台湾総督府）のすぐ側にある総統副総統文物館（図9），国史館を参観

図8　国家図書館.

Fig. 8　National Central Library.

図9　総統副総統文物館.

Fig. 9　Presidential and Vice-Presidential Artifacts Museum.

した。なお，前回（2015年3月上旬）訪問した国史館はMRT新店駅を下車してから，さらにバスに乗ってしばらく行ったところにある（弁納・古泉，2015）。

まず，2階の総統副総統文物館の展示を参観したが，学生のうちの数人が同館内の日本に関心を持っているという女性職員に話しかけられて英語・中国語・日本語を交えながら会話をしていた。

その後，1階の国史館で職員の方に助けていただいて，アカウント（「帳号」，「密碼」）を取得し，檔案資料や史料の検索をしてみた。これによって，日本でも国史館の档案資料などの所蔵目録を検索することができることがわかった。なお，新店にある国史館には，殆どの原典が所蔵されている。

4）国立台湾大学

3月7日（月）午後，国立台湾大学（図10）を訪問した。同大学の正門前で集合写真を撮っていたところ，カンボジアから台湾に旅行に来ていた学生に話しかけられた。その後，台湾大学構内に設置されていた同大学の校史に関する展示を閲覧してから，台湾大学図書館を参観し，台湾大学の近くにある古書店へ移動した。

5）国立台湾師範大学

3月7日（月）夕方，台湾師範大学（図11）を訪問し，同大学に留学中の国際学類2年生の小笠原千紘の紹介と事前準備によって，18:00～19:00，20人余りの台湾師範大学の学生（数名の留学生を含む[3]）と

図10　台湾大学正門前.

Fig. 10　Main gate of the National Taiwan University.

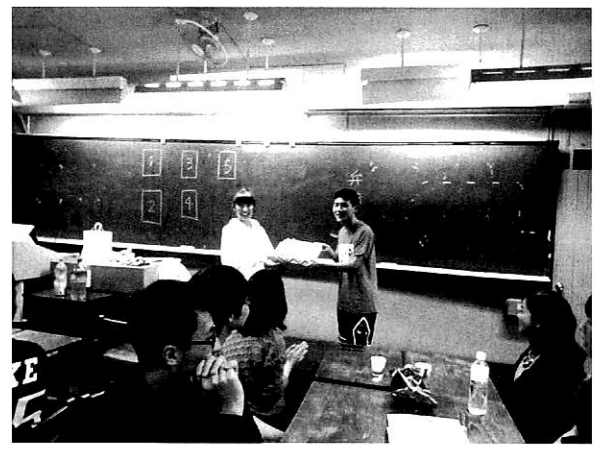

図11　台湾師範大学の学生に土産を渡す国際学類1年生の中川純.

Fig. 11　Kanazawa University's student greeting with a student of the National Taiwan Normal University.

交流することができた。小笠原が日本語と中国語で司会進行役を務め，中川が金沢大学の学生を代表して最初に挨拶の言葉を述べた。そして，19:00からは台湾師範大学の近くの餃子館（前回と同様）で食事をしながら交流を続けた。

今回の交流にかかわる一連の事前準備と当日の仕切りは小笠原に完全に任せていたが，非常によくやってくれて，本人にとっても非常に学ぶところが多かったと考えられ，その教育的効果も大きかったと思う。

Ⅳ．その他

1）2･28記念館

3月4日（金）午後，台北市日本工商会を訪問する前に，2･28記念公園内にある2･28記念館を参観した。同館の入館料は20台湾ドルだったが（前回は，2･28事件記念日の翌日の3月1日に参観したため無料開放だった），学生は入館料が無料だった（金沢大学の学生証を提示した）。我々が入館した時，同館内にはボランティアと思われる老人から説明を受けていた高校生のグループがいくつかいたので，筆者らは，その後に付いて行って説明を聞いた。

2）台中市孔子廟

3月5日（土），ホテル近くのレストランで昼食をとった後，徒歩で台中市孔子廟（図12，開放時間は9:00～17:00，月曜日休館）を参観したが，入場料は徴収されなかった。その中の大成門には合格祈願の言葉を書くためのカード（日本で言う願掛けの絵馬のようなもの）を掛ける場所があり，また，大成殿（本殿か？）には合格祈願の言葉を書いた紙を投函する箱が設置してあり，合格祈願のために参拝するようになっていた。ただし，当日は，受験シーズンではなかったためであろうか，訪問者は非常に少なかった。

図12　台中市孔子廟.
Fig. 12　Taichung Confucius Temple.

台中市は，台北市よりも南に位置しているために，やはり台北市より気温が高く，当日，徒歩で30分余りかけて台中市孔子廟に向かっていた時は汗ばむほどだったので，帰りはバスでホテルまで戻った（台北市で購入した「悠遊卡」を使用することができた）。台中市からすると，台北市は大都会に見える。

我々教員2人は，在来線の台中駅の近くの店で夕食をとった。台中駅舎は，日本統治時代に建設されたものであろう。

3）中正記念堂

3月6日（日）午後，国家図書館を訪問した後，そのすぐ隣にある中正記念堂を参観した。今回も，同堂内の巨大な蒋介石の座像の両脇に立つ衛兵の交代をみることができた。その際，中国大陸からやって来たと思われる中高年女性のグループが大声で話しながら筆者らの前に割り込んで来て衛兵を撮影していたのには非常に辟易させられた。しかも，今回は，同堂内の1階に中国大陸でよく見かけるような抗日戦争の惨状とその勝利を祝う展示があった。

4）国父記念館

3月6日（日）午後，今回も，中正記念堂についで国父記念館を参観した。また，中正記念堂と同様に，同館内の巨大な孫文の座像の両脇に立つ衛兵の交代を見ることができた。同館内には，台湾に多くの原住民族がいたことから，人口の大部分を占める外来の福建省南部の閩南語を話す漢族との間での「多文化共生」を掲げる展示ブースがある。

5）故宮博物院

3月8日（火）午後，MRT淡水線士林駅で下車して，故宮博物院行きのバスに乗って故宮博物院を参観した。今回は，中国大陸からやって来たと思われる観光客が前回（2015年3月上旬）よりも少なかったように思われ，前回ほどは混雑していなかった。

6）紅毛城

3月9日（水）午後，MRT淡水駅で下車し，少し遅い昼食をとり（淡水名物の「阿給」などを食べた），ほぼ昨年と同じコースで紅毛城（旧イギリス領事館）を参観した。その途中，福佑宮（図13）と宣教師マッケイの開いた教育施設を基とする真理大学を訪問した。

7）その他

3月9日（水）午前，日勝生加賀屋を訪問する前に，そのすぐ近くにある台北市図書館北投分館（図14，開放時間は，日曜日・月曜日が9:00～17:00，水曜日～土曜日が8:30～21:00）と温泉博物館を参観した。

同日（水）午後は，毛紅城を参観した後，淡水海関碼頭に至ったところで，解散して自由行動とした。我々２名の教員は，淡水駅に戻る途中で「得忌利士（ダグラス）洋行」（図15）に立ち寄って参観した。

図13　福佑宮(媽祖宮)で参拝と占いをする学生たち.

Fig. 13　Students worshipping and checking their fortunes in the Fu You Temple.

図14　台北市図書館北投分館.

Fig. 14 Taipei Public Library Beitou Branch.

3月10日（木），あいにくの雨にもかかわらず，士林官邸公園は非常に多くの中国大陸からやって来た観光客で賑わっていた。ただし，残念ながら，士林官邸（図16）自体は休館となっており，入館することはできなかった。

図15　ダグラス洋行.

Fig. 15　Douglas Lapraik & Co.

図16　士林官邸.

Fig. 16　Shilin Main Presidential Residence.

V．おわりに

以上が訪問事業の概要であるが，本報告を終えるにあたり，3月9日（水）の夜に，参加した学生全員を集めて実施した反省会での議論をもとに，学生への教育効果と，それを踏まえた将来の訪問計画についてコメントを加えたい。

まず，学生のニーズについて。今回の研修に参加した学生の中には，台湾で活動する企業の方から話を聞くことに主たる関心を持つ者がいた一方で，台湾における各種学術機関を訪問すると聞き，申請し

た者もいた。筆者らは，いずれも台湾社会を理解する上で重要なものと考えているが，今後参加者が増えた場合には，企業への訪問に重点を置く班と，学術機関への訪問・調査を中心とする班に分けて行動をとるなど，個々の学生のニーズに対応することも必要となろう。

参加した学生の台湾に対する印象は，おしなべて良いものであったと言えよう。反省会では，台湾人が老若男女を問わず親日的であることが共通して挙げられた。また，ある学生は，日本よりもむしろ台湾のほうがマナーがよいのではないか，という印象を受けたと言っていた。さらに台湾では，あらゆる場合において，我々が日本人だとわかると，親切にしていただいた。この点は，今回参加した学生はより一層強く感じたと思う。こうした台湾における経験は，今後，彼らが留学や転勤などを通じて，海外で生活することを後押しするものとなろう。また，全国的に大学生の内向き志向が懸念される中で，本学の学生が訪問先の各企業において，海外で働くことに積極的な姿勢を見せたことは，本学のイメージを上げることにも貢献したであろう。本学の国際学類には海外での仕事に憧れ，世界各地で活動する民間企業に就職する者も多いため，本事業の企業訪問等が，大学と企業間の架け橋としての役割を果たすことになれば幸いである。

なお，今回，台湾を訪問するにあたって，学生には事前に近代台湾史（少なくとも1895年から1947年まで）についてレポートを提出させておいた。また，今回の研修を終えてのレポートも提出させた。

謝　辞：今回の台湾研修は，日本学生支援機構(JASSO)の補助金を獲得することができず，我々2人の教員の引率旅費は全額を金沢大学人間社会学域国際学類の学生教育経費から支出していただいた。この点について，承諾・理解していただいた同学類の加藤和夫学類長をはじめとする諸先生方には衷心よりお礼を申し上げたい。

注

[1] なお，合わせて，弁納（2009），弁納（2012），弁納・古泉（2015），弁納・周（2010）なども参照されたい。

[2] 今回，参加した学生は，国際学類1年生の中川純・山口はな・竹内友輔，人文学類3年生の小屋敷瑛美・福田彩乃・柏原麟，経済学類4年生の安地雅博の7名である。このうち，山口はな・竹内友輔・小屋敷瑛美・福田彩乃は短期語学研修や個人旅行などですでに台湾訪問の経験があった。

[3] 小笠原千紘を含む3人の日本人留学生（首都大学東京と愛知大学）の他に，香港人と韓国人の留学生が各々1人いた。

文　献

弁納才一，2009：華東地域における日系企業の現況-2009年9月-．金沢大学経済論集，**30**，345-360.

弁納才一，2012：中国華東地域における日系企業等への再訪記録－2012年３月－．金沢大学経済論集，**33**，265-287.

弁納才一・古泉達矢，2014：東南アジア・台湾における日系企業等への訪問記録－2014年3月－．金沢大学経済論集，**35**，189-207.

弁納才一・古泉達矢，2015：台湾における日系企業等への訪問記録－2015年3月－．金沢大学経済論集，**36**，193-220.

弁納才一・周如軍，2010：中国華東地域訪問記録－2010年2月･3月－．金沢大学経済論集，**31**，197-210.